

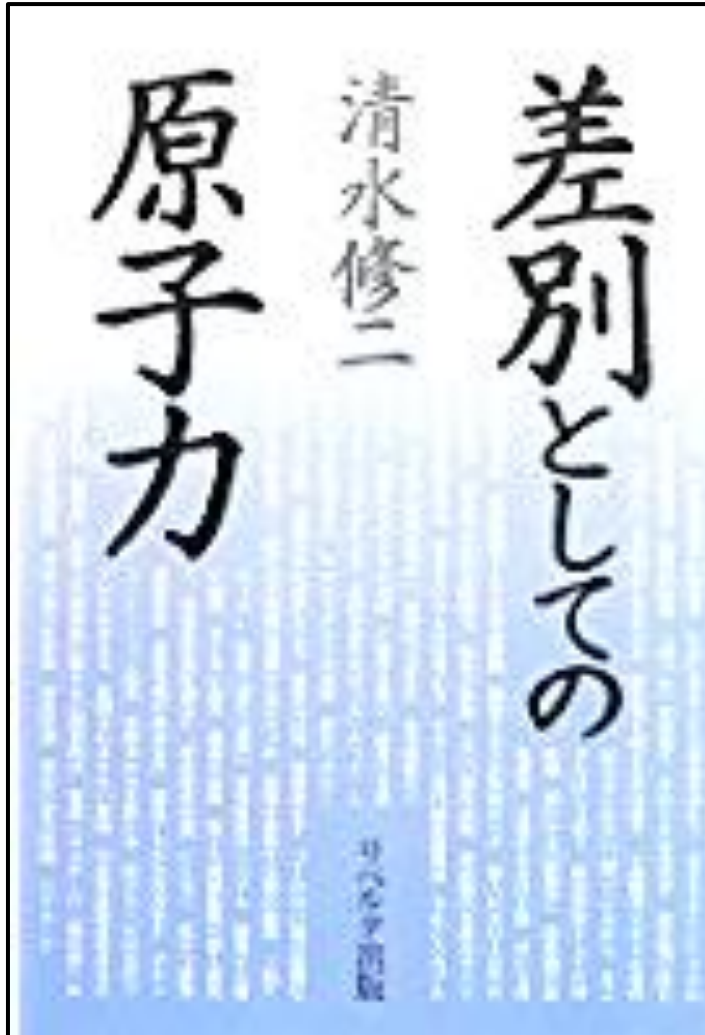
「福島差別」の問題と しあわせ基準

市民社会フォーラム in 京都

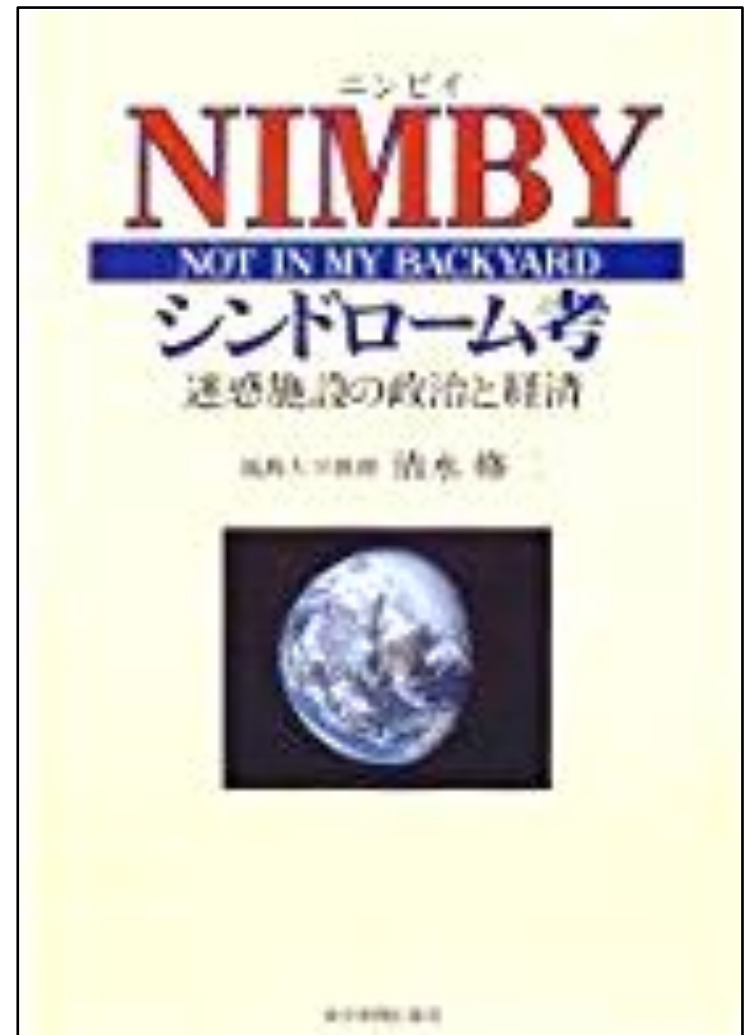
2018.2.4

福島大学名誉教授 清水修二

「差別」という問題意識



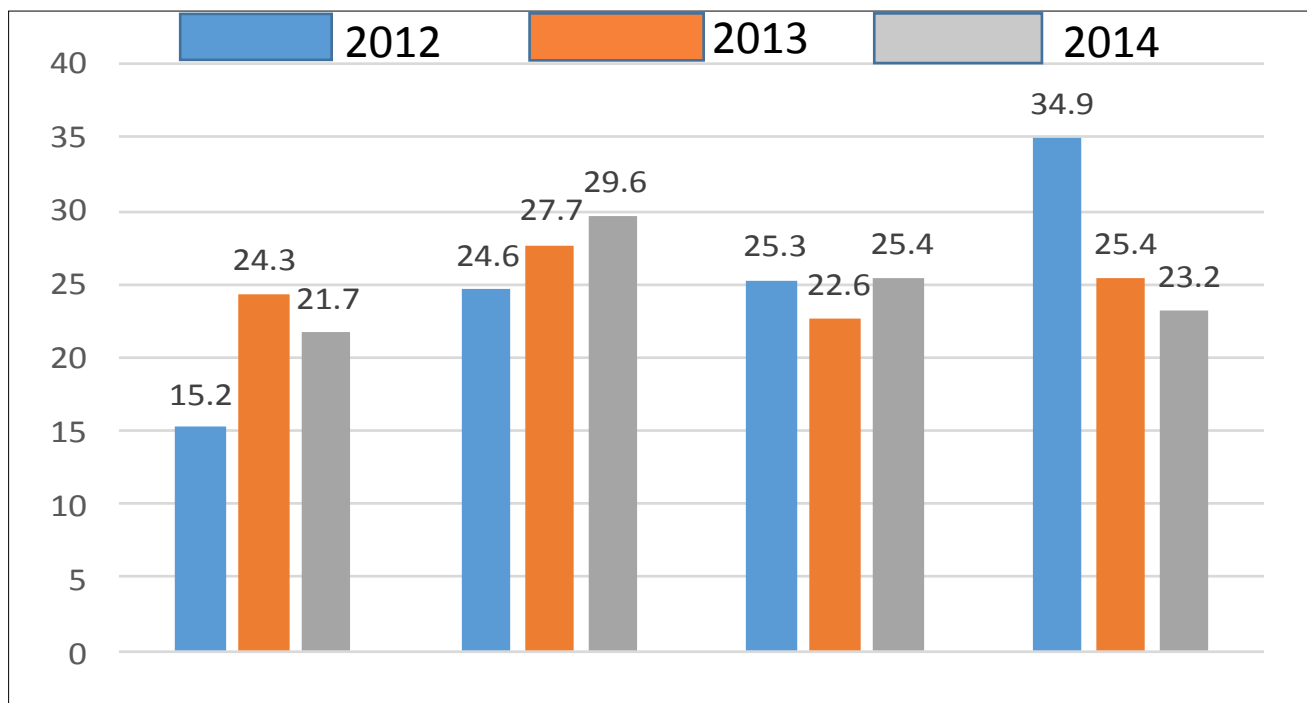
1994



1999

一番の心配: 遺伝的影響への懸念

- 現在の被曝線量で子どもや孫に健康影響がどれくらいでるとおもいますか？



←可能性はきわめて低い

可能性はきわめて高い→

「遺伝への懸念」がもたらす悲劇

福島民報への投稿（抄）

るたつ東生
あしかてら
ら産なしが
か出しそな
常を難、え
通も避恨か
はどき悔か
常子とう生
異たのい一
・しあと一
形う「」を
奇そ。か怒れ
天でいい憤こ
先島しなや
る福ほは念
す。てで怨
とるみのるし
めすてたすも
じ生えっ対か
は発考か
をでをな府
形率ちく政
奇確持よやと
臓の気が力こ
心度のの電
程親た京き

「次答配人る。いら
と心1いるてな
」がにいていれ
たえ響人つてま
れい影7らし生
さいのそめ過が
告「線よた経も
報に射おをがど
も問放。とく子
果質「るこ近の
結のがいつ半ず
の（と）ても年
」りけを2たじ
「」りけを2たじ
調す答をど既
るで回印子られ
すえ数にてか
関考複由れ故
にお（理恐事ら
婦を%うを。な
産産6い響た当
妊出14と影と本
」の「的こ、い
た娠人め伝う間
ま妊たた遺いの
回えながとこな

てもでい。け
じて婚なな
信れ結きき
くわちで生
深言たもで
をと私と持
在」「こ気
存ならるな
のるかすう
響す身定よ
影婚自否た
的結ちりれ
伝はたきさ
遺ともつめ
が者どはの
身の子、ち
自島、て打
民福しれ、
県「いわ生
る、な問一
あときとも
でだで」ど
者う論の
災よ反いと
被るくな子
い全き親

“確証のない被害”とどう向き合うか

○高校生に質問された

「僕たちが大人になって結婚して、奇形児が生まれるようなことはないでしょうか」

○疫学調査の限界

「統計的に有意な関係は認められない」

○「理科」の問題 → 「社会」の問題

「人のしあわせ」という価値判断基準

“ゼロとは言えない”リスクをどう扱うか 「福島は住めない」論をめぐって

○リスク・トレードオフ問題として

私の追加被曝線量はおよそ年間0.4mSv

福島県産のコメのセシウムは検出限界未満

○「やむをえない被曝」と「無用な被曝」

起こってしまった事態の下での「生活の問題」としてとらえること。

福島県民は被害を容認しているわけではない。

県民健康調査について

○調査の目的は2つある

- ①被曝線量を推計する(被曝の影響調査)
- ②県民の健康を見守り、改善する

○被曝の影響はまだ調査中だが、その他の健康被害がすでに確認されている 甲状腺にばかり注目するのは問題

○調査は「成功」させなければならない 「真相は藪の中」とされる余地をなくせるか

県民健康調査のデータを用いた研究論文(抄)

- ①福島第一原子力発電所の避難は、低HDLコレステロール血症の危険因子のひとつである
- ②東日本大震災後の避難者と非避難者での腎機能障害有病率の検討
- ③福島第一原発事故後の避難区域における住民の心理的苦痛、心的外傷後ストレス、問題飲酒に関する3年間トレンド解析
- ④福島原子力発電所事故後における乳児の栄養方法
- ⑤東日本大震災後の、妊婦健診施設の変更が妊娠期間に与えた影響の検討
- ⑥福島第一原子力発電所の事故によって生じた避難区域における避難生活者の深刻な心理的苦痛
- ⑦震災後避難がメタボリックシンドロームに及ぼす影響について
- ⑧福島第一原発事故後の避難生活が肝機能に及ぼした影響
- ⑨東日本大震災と福島第一原発事故後のこどものメンタルヘルス
- ⑩東日本大震災と福島原子力発電所事故前後での福島県内の妊婦における周産期予後の検討
- ⑪東日本大震災4年後も継続する避難住民における多血症の発症

甲状腺の“過剰診断”問題

○疫学者と臨床医

「不必要な治療はしていない」(医師)

「過剰診断ならなぜ手術した」(患者)

○患者とその家族に“寄り添う”ということ

因果関係「有」の場合と「無」の場合

「責任追及の観点」からの切り離しが必要

○いつまで検査を続けるのか

簡単にやめられない「罪の深さ」(星座長)

人心の分断をどう乗り越えるか

- 県民個々人の心情も引き裂かれているが
被曝の健康被害については「何もなかった」という決着を県民は心から願っている
- 「善意が人を傷つける」事態を解消できないか
政治主義的価値判断を介在させないこと
- それぞれの判断と選択を互いに尊重すること、
それだけでも状況は改善する